



# ユーザアクセスの管理

## Active IQ Unified Manager

NetApp  
June 23, 2025

# 目次

ユーザアクセスの管理	1
ユーザを追加する	1
データベースユーザを作成しています	1
ユーザ設定の編集	2
ユーザの表示	3
ユーザまたはグループを削除する	3
RBAC とは	3
ロールベースアクセス制御の機能	4
ユーザタイプの定義	4
ユーザロールの定義	5
Unified Manager のユーザロールと機能	6

# ユーザアクセスの管理

Active IQ Unified Manager へのユーザアクセスを制御するために、ロールを作成し、機能を割り当てることができます。Unified Managerで選択したオブジェクトにアクセスするために必要な権限を持つユーザを特定できます。これらのロールと機能を持つユーザのみがUnified Managerでオブジェクトを管理できます。

## ユーザを追加する

ユーザページを使用して、ローカルユーザまたはデータベースユーザを追加できます。また、認証サーバに属するリモートユーザやリモートグループを追加することもできます。追加したユーザにロールを割り当てることで、ユーザはロールの権限に基づいて Unified Manager でストレージオブジェクトやデータを管理したり、データベースのデータを表示したりできます。

開始する前に

- アプリケーション管理者のロールが必要です。
- リモートのユーザまたはグループを追加する場合は、リモート認証を有効にし、認証サーバを設定しておく必要があります。
- SAML 認証を設定して、グラフィカルインターフェイスにアクセスするユーザをアイデンティティプロバイダ (IdP) で認証する場合は、これらのユーザが「「 morte 」ユーザとして定義されていることを確認します。

SAML 認証が有効になっている場合、「ローカル」または「メンテナンス」タイプのユーザーに UI へのアクセスは許可されません。

Windows Active Directory からグループを追加した場合は、ネストされたサブグループが無効になっていないかぎり、すべての直接メンバーとネストされたサブグループは Unified Manager で認証できます。OpenLDAP またはその他の認証サービスからグループを追加した場合は、そのグループの直接のメンバーだけが Unified Manager で認証されます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、\* 一般 \* > \* ユーザー \* をクリックします。
2. [ ユーザー ] ページで、[ \* 追加 ] をクリックします。
3. [ ユーザーの追加 ] ダイアログボックスで、追加するユーザーのタイプを選択し、必要な情報を入力します。

必要なユーザ情報を入力するときは、そのユーザに固有の E メールアドレスを指定する必要があります。複数のユーザで共有している E メールアドレスは指定しないでください。

4. [ 追加 (Add) ] をクリックします。

データベースユーザを作成しています

Workflow Automation と Unified Manager の間の接続をサポートする場合や、データベー

ビューにアクセスする場合は、まず Unified Manager Web UI で、 Integration Schema ロールまたは Report Schema ロールを持つデータベースユーザを作成する必要があります。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

データベースユーザは、 Workflow Automation との統合およびレポート固有のデータベースビューへのアクセスを行うことができます。データベースユーザは、 Unified Manager Web UI やメンテナンスコンソールにはアクセスできず、 API 呼び出しも実行できません。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、 \* 一般 \* > \* ユーザー \* をクリックします。
2. ユーザーページで、 \* 追加 \* をクリックします。
3. [ユーザーの追加] ダイアログボックスの [タイプ] ドロップダウンリストで [データベースユーザー \*] を選択します。
4. データベースユーザの名前とパスワードを入力します。
5. [\* 役割 \*] ドロップダウンリストで、適切な役割を選択します。

実行する作業	このロールを選択します
Unified Manager を Workflow Automation に接続しています	統合スキーマ
レポートおよびその他のデータベースビューにアクセスする	レポートスキーマ

6. [追加 (Add) ] をクリックします。

## ユーザ設定の編集

各ユーザを指定する E メールアドレスやロールなどのユーザ設定を編集することができます。たとえば、ストレージオペレータのユーザのロールを変更して、そのユーザにストレージ管理者の権限を割り当てることができます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

ユーザに割り当てられているロールを変更すると、次のいずれかのアクションが発生したときに変更が適用されます。

- ユーザが Unified Manager からログアウトして再度ログインしたとき
- セッションのタイムアウトが 24 時間に達しました。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、 \* 一般 \* > \* ユーザー \* をクリックします。

2. ユーザーページで、設定を編集するユーザーを選択し、\* 編集 \* をクリックします。
3. [ユーザーの編集] ダイアログボックスで、ユーザーに指定されている適切な設定を編集します。
4. [保存 (Save) ] をクリックします。

## ユーザの表示

ユーザページを使用して、Unified Manager を使用してストレージオブジェクトとデータを管理するユーザのリストを表示できます。ユーザの詳細を表示できます。これには、ユーザ名、ユーザのタイプ、Eメールアドレス、ユーザに割り当てられているロールなどの情報が含まれます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

ステップ

1. 左側のナビゲーションペインで、\* 一般 \* > \* ユーザー \* をクリックします。

## ユーザまたはグループを削除する

管理サーバデータベースから 1 人以上のユーザを削除して、特定のユーザが Unified Manager にアクセスできないようにすることができます。また、グループを削除して、グループ内のすべてのユーザが管理サーバにアクセスできないようにすることもできます。

開始する前に

- リモートグループを削除するときは、リモートグループのユーザに割り当てられているイベントを再割り当てしておく必要があります。

ローカルユーザまたはリモートユーザを削除する場合は、それらのユーザに割り当てられていたイベントの割り当てが自動的に解除されます。

- アプリケーション管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、\* 一般 \* > \* ユーザー \* をクリックします。
2. [ユーザー] ページで、削除するユーザまたはグループを選択し、[削除 \*] をクリックします。
3. [はい] をクリックして削除を確定します。

## RBAC とは

RBAC (ロールベースアクセス制御) を使用すると、Active IQ Unified Manager サーバのさまざまな機能やリソースにアクセスできるユーザを制御できます。

# ロールベースアクセス制御の機能

管理者は、ロールベースアクセス制御（RBAC）を使用してロールを定義することで、ユーザのグループを管理できます。特定の機能のアクセスを選択した管理者に制限する必要がある場合は、その管理者の管理者アカウントを設定する必要があります。管理者が表示できる情報と、管理者が実行できる処理を制限する場合は、作成した管理者アカウントにロールを適用する必要があります。

管理サーバでは、ユーザログインとロールの権限に対して RBAC を使用します。管理サーバで管理ユーザアクセスのデフォルト設定を変更していない場合は、ログインして設定を表示する必要はありません。

特定の権限を必要とする処理を開始すると、管理サーバによってログインを求められます。たとえば、管理者アカウントを作成するには、アプリケーション管理者アカウントのアクセス権でログインする必要があります。

## ユーザタイプの定義

ユーザは、アカウントの種類に基づいて、リモートユーザ、リモートグループ、ローカルユーザ、データベースユーザ、およびメンテナンスユーザの各タイプに分類されます。それぞれのタイプには、管理者ロールを持つユーザによって独自のロールが割り当てられます。

Unified Manager には次のユーザタイプがあります。

- \* メンテナンスユーザー \*

Unified Manager の初期設定時に作成されます。メンテナンスユーザは、追加のユーザを作成してロールを割り当てます。メンテナンスコンソールにアクセスできる唯一のユーザでもあります。Unified Manager を Red Hat Enterprise Linux システムにインストールしている場合、メンテナンスユーザのユーザ名は「umadmin」になります。

- \* ローカルユーザー \*

Unified Manager UI にアクセスし、メンテナンスユーザまたはアプリケーション管理者ロールを持つユーザから割り当てられたロールに基づいて操作を実行します。

- \* リモートグループ \*

認証サーバに保存されているクレデンシャルを使用して Unified Manager UI にアクセスするユーザのグループです。このアカウントの名前は、認証サーバに保存されているグループの名前と一致している必要があります。リモートグループのユーザは、各自のユーザクレデンシャルを使用して Unified Manager UI にアクセスできます。リモートグループに割り当てられたロールに基づいて操作を実行できます。

- \* リモートユーザー \*

認証サーバに保存されているクレデンシャルを使用して Unified Manager UI にアクセスします。リモートユーザは、メンテナンスユーザまたはアプリケーション管理者ロールを持つユーザから割り当てられたロールに基づいて操作を実行します。

- \* データベースユーザー \*

Unified Manager データベースのデータへの読み取り専用アクセスが許可されます。 Unified Manager の Web インターフェイスやメンテナンスコンソールにはアクセスできず、API 呼び出しも実行できません。

## ユーザロールの定義

メンテナンスユーザまたはアプリケーション管理者が、各ユーザにロールを割り当てます。各ロールには特定の権限が含まれています Unified Manager で実行できる操作の範囲は、割り当てられたロールとその権限で決まります。

Unified Manager には、事前定義された次のユーザロールが用意されて

### • \* 演算子 \*

履歴や容量の傾向など、 Unified Manager によって収集されたストレージシステムの情報やその他のデータを表示します。このロールを割り当てられたストレージオペレータは、イベントについて、表示、割り当て、応答、解決、メモの追加などの操作が可能です。

### • \* ストレージ管理者 \*

Unified Manager でのストレージ管理処理の設定を行います。このロールを割り当てられたストレージ管理者は、しきい値の設定、およびアラートなどのストレージ管理用のオプションやポリシーの作成が可能です。

### • \* アプリケーション管理者 \*

ストレージ管理以外の設定を行います。ユーザ、セキュリティ証明書、データベースアクセスのほか、認証などの管理オプションを使用できます。SMTP、ネットワーク、および AutoSupport。



Unified Manager を Linux システムにインストールした場合は、アプリケーション管理者ロールが割り当てられた最初のユーザに自動的に「umadmin」という名前が付けられます。

### • \* 統合スキーマ \*

Unified Manager と OnCommand Workflow Automation (WFA) の統合用に Unified Manager のデータベースビューにアクセスするための読み取り専用アクセスが許可されます。

### • \* レポートスキーマ \*

レポートおよびその他のデータベースビューに Unified Manager データベースから直接アクセスするための読み取り専用アクセスが許可されます。表示できるデータベースは次のとおりです。

- NetApp\_model\_view
- パフォーマンス
- ocum
- ocum\_report
- ocum\_report\_BIRT
- OPM

- 頭皮管理者

## Unified Manager のユーザロールと機能

Unified Manager で実行できる操作は、割り当てられているユーザロールに基づいて決まります。

次の表に、各ユーザロールで実行できる機能を示します。

機能	演算子	ストレージ管理者	アプリケーション管理者	統合スキーマ	レポートスキーマ
ストレージシステムの情報を表示する	•	•	•	•	•
履歴や容量のトレンドなど、その他のデータを確認できます	•	•	•	•	•
イベントを表示、割り当て、解決します	•	•	•		
SVM の関連付けやリソースプールなどのストレージサービスオブジェクトを表示する	•	•	•		
しきい値ポリシーを表示します	•	•	•		
SVM の関連付けやリソースプールなどのストレージサービスオブジェクトを管理する		•	•		
アラートを定義		•	•		
ストレージ管理オプションの管理		•	•		

機能	演算子	ストレージ管理者	アプリケーション管理者	統合スキーマ	レポートスキーマ
ストレージ管理ポリシーを管理する		•	•		
ユーザを管理します			•		
管理オプションの管理			•		
しきい値ポリシーを定義			•		
データベースアクセスの管理			•		
WFA との統合の管理とデータベースビューへのアクセス				•	
レポートのスケジュール設定と保存		•	•		
管理アクションから「Fix it」オペレーションを実行します		•	•		
データベースビューへの読み取り専用アクセスを提供します					•

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。